

9月7日は、絶滅危惧種の日です !!

オーストラリアでは、9月7日が「**絶滅危惧種の日**」(National Threatened Species Day)として制定されています。

この記念日は、1936年(昭和11年)9月7日、オーストラリア・タスマニア州のホバート動物園で飼育されていた**フクロオオカミ**(袋狼)の最後の一頭が死亡し、フクロオオカミが絶滅したことに由来しています。

そのフクロオオカミは、**ベンジャミン (Benjamin)**と名付けられていました。

フクロオオカミが絶滅してから60年後の1996年(平成8年)に記念日が制定されました。



この「絶滅危惧種の日」は、脅威にさらされている生存の動物や植物、生態系に目を向け、現在および将来にわたりそれらを保護する方法について考える日です。

また、この日は絶滅危惧種を救うために行動する保護活動家や研究者、ボランティアなどを称える日でもあります。

フクロオオカミは、オーストラリアのタスマニア島に生息していた、哺乳類フクロネコ目フクロオオカミ科に属する大型肉食獣です。

コアラやカンガルーと同じ有袋類でありながらオオカミにあたり、言わば「**袋を持つオオカミ**」ということです。

英語では、一般的にサイラシン (Thylacine) と呼ばれ、**タスマニアオオカミ** (Tasmanian wolf) の別名がある他、背中にトラを思わせる縞模様があることから、**タスマニアタイガー** (Tasmanian tiger) とも呼ばれています。

特徴的な大きな口とトラのような模様を持つ**フクロオオカミ**は、狩猟の対象となり、懸賞金がかけられた時期もありましたが、タスマニア島で2000頭を超える個体が捕殺されました。



タスマニアタイガーの絶滅の主な要因は、生息地の喪失と狩猟による乱獲です。

ヨーロッパ人がタスマニアに入植すると、タスマニアタイガーの生息地は急速に減少しました。彼らの生息地が農地や都市開発によって侵食されたことで、彼らの狩猟や食物の供給源も減少しました。

また、タスマニアタイガーは家畜の襲撃や害獣とみなされて駆除されることもありました。このため、人間との接触が増えたことも彼らの生存を脅かしました。

タスマニアタイガー絶滅は、生物多様性の喪失や生態系の変化に大きな影響を与えました。

タスマニアタイガーは、タスマニア島の食物連鎖の一部であり、彼らの存在は他の生物にとって重要でした。彼らが絶滅したことで、その役割を代替する生物が現れるかどうかはまだわかりません。

タスマニアタイガーの絶滅は、人間の活動が生物多様性に与える影響の一例です。

我々は自然環境を保護し、他の絶滅の危機に瀕している生物を守るために努力する必要があります。

2023年9月7日

福岡ワンヘルス協議会・事務局